

2020.06.11

【国際】 UPU、新型コロナの郵便セクターへの影響を調査

万国郵便連合（UPU）の調査（実施期間1月23日から5月14日）により、新型コロナウイルスの影響で、2020年に入ってから世界の国際郵便物（書状・小包・速達）の取扱数が激減していることが、5月下旬に明らかになった。

世界の国際郵便物の取扱数は、前年同期比21%減少した。UPUが2010年に加盟192か国間で電子データの記録をとり始めて以来、最大の落ち込み幅だった。

輸送の混乱・停止、人手不足が、サプライチェーンにダメージを与えた。また、世帯収入の減少が郵便物数の減少につながっている可能性があるとした。

また、UPUは、今後も郵便物数が減少すると予想。各国の郵便事業者が直面するであろう3つのシナリオを想定し、郵便事業者と政府に対策を提言した。

1つ目のシナリオは、「郵便事業者が正常な状態に戻れない」という悲観的なものだ。2つ目のシナリオは、「新型コロナの影響は短期間で解消するが、その後も書状の取扱数の減少という問題が残る」というもので、UPUは、最も現実味を帯びているのはこのシナリオだとしている。3つ目のシナリオは、「郵便事業者は早期に正常な状態を取り戻し、長期的な取扱数減少を増加に転じさせる好機を活かす」という楽観的なものだ。

郵便事業者がこれらのシナリオのうち、どれに当てはまるかは、「供給」「郵便サプライチェーンの回復力」「政府の新型コロナ感染防止策の期間の長さ」「経済的リスク緩和策」「消費者の可処分所得」「代替的なデジタル通信手段の採用」「各国の郵便事業発展動向」など、様々な要因に左右されると分析している。

参考：UPU “The COVID-19 crisis and the postal sector”

http://www.upu.int/uploads/tx_sbdownloader/theCovid19CrisisAndThePostalSectorEn.pdf